

## 令和7年第3回議会定例会（諸般の報告）

開会に当たり、諸般の報告を申し上げます。

はじめに、「しろいの梨」について申し上げます。

市特産の「しろいの梨」が収穫期を迎えております。

今年度は、成長期に雨が少なかったことから幸水の出始めは小玉スタートでしたが、最盛期には、例年通り甘くて大きくなっていると伺っております。

8月2日（土曜日）には、白井市をはじめとした、千葉県内の梨の生産地の代表者と熊谷知事が、東京都中央卸売市場 太田市場に「千葉の梨」をPRするために出向き、「しろいの梨」についても白井市梨業組合長がPRしてくださいました。

また、「千葉なし 味自慢コンテスト」が習志野市にあるイオンモール津田沼を会場に、今年も開催され、8月6日に審査、7日に受賞商品の直売会が実施されました。

今年度は、県内17市町、18団体から111点の「幸水」が出品され、「しろいの梨」の生産者である湯浅 貴学さんが最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。そして、2位に贈られる千葉県知事賞も白井中央梨選果場組合Bが受賞され、1番、2番の評価を白井市の生産者がうけたところです。そのほか、関東農政局長賞や全国果樹研究連合会長賞、奨励賞を「しろいの梨」の生産者が受賞しました。

「しろいの梨」は名実ともにトップレベルであることが証明されたところでございます。

次に、「酒井 一圭さんの『しろいふるさと大使』就任について」申し上げます。

2018年から7年連続で紅白に出場しているムード歌謡コーラスグループ「純烈」のリーダー 酒井 一圭さんを白井市の魅力を全国に発信する「しろいふるさと大使」に委嘱いたしました。

しろいふるさと大使に就任した 酒井さんは、「子どもが伸び伸びと過ごせる白井の魅力を精一杯PRさせていただきます」と抱負を述べられています。

なお、しろいふるさと大使は、市の知名度向上やイメージアップのために、市にゆかりのある方を委嘱しており、酒井さんを含めて、現在11組12名の方にお受けいただいております。

このように、白井市出身の方々が、各方面でご活躍されていますが、ここで更に、うれしいお知らせがあります。9月13日に開幕する、「東京2025 世界陸上」男子100メートルの代表として、七次台中学校出身の守 祐陽さんが出場することが決定しました。大会初日、13日（土）に予選があります。みなさんも、ぜひ応援してください。

次に、「株式会社トレミールとの災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定について」申し上げます。

市では、災害時における応急対策 及び早期復旧を図るため、災害時応援協定の締結を推進しており、株式会社トレミールと「災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定」を締結しました。

協定内容については、市内において、地震や風水害等の大規模な災害が発生した場合に、衛星通信設備スターリンクをはじめとする通信機器の貸与を要請することができるものです。

この協定の締結により、災害時に通信手段が断絶した場合でも、災害対策本部や避難所との通信手段が確保され、円滑な情報収集・情報伝達に大きく役立つものと考えております。

市では、今後も防災関係機関や民間事業者、市民の皆様と連携・協力体制の強化を図りながら、「災害に強いまちづくり」を推進してまいります。

最後に「令和8年度予算編成方針」について申し上げます。

令和8年度は、「第6次総合計画」がスタートする重要な年でございます。このような中、令和8年度予算については、一般会計の予算総額を約225億円と見込み、第6次総合計画の将来像「世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち」の実現に向けて、財源の確保を図りつつ、真に必要な施策に財源を重点的かつ効率的に配分することとし、2つの基本方針を定め編成することとしております。

1つ目の方針は、「第6次総合計画前期基本計画の着実な推進」、2つ目の方針は、「持続可能な行財政運営の実現」です。

はじめに、「第6次総合計画前期基本計画の着実な推進」では、前期基本計画の「6つの目指すまち」、具体的には「若い世代が定住したいまち」、「誰もが交流し支え合えるまち」、「自ら学び育ちチャレンジできるまち」、「白井らしい環境を活かすまち」、「新しい産業が栄えるまち」、「災害に強いまち」に位置付ける施策を着実に推進することとしております。

次に、「持続可能な行財政運営の実現」では、市の将来を見据えた持続可能な財政運営のため、安定的な財源の確保が必要であることから、引き続き税の徴収率の向上やふるさと納税制度の活用を図るとともに、

企業誘致の推進により、更なる歳入の確保を図ること。国県補助金の確実な活用や多様な方法による財源確保を図ること。「白井市D X推進指針」に基づき、市民サービスの向上や市役所業務の効率化、地域活動の活性化にD Xの取組を推進することとしております。

なお、事業の実施に当たりましては、S D G s やゼロカーボンの視点のほか、産官学の連携を意識しながら取り組むこととしております。

以上、申し上げました予算編成方針に基づきまして、今後、予算編成作業を進めてまいります。

以上で諸般の報告を終わります。